

2017年8月25日

鹿児島大学病院 脳神経外科 で  
神経血管減圧術の手術を受けた患者さんへ  
( 医学系研究に関する情報 )

鹿児島大学病院脳神経外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】

神経血管圧迫症候群の臨床像に関する研究

【研究機関】

鹿児島大学病院 脳・神経センター 脳神経外科

【研究責任者】

鹿児島大学病院 脳・神経センター 脳神経外科  
講師 花谷亮典

【研究の目的】

神経血管圧迫症候群は、脳血管が三叉神経や顔面神経などの脳神経に圧迫を加えるために、三叉神経痛や片側顔面痙攣などの深刻な症状を呈する病気です。この症候群は、一般には加齢による脳動脈硬化に伴い後頭蓋窩の脳動脈が延長蛇行し、その血管が脳神経と脳幹との移行部に接触するようになるために生じると考えられています。そのため、三叉神経痛や片側顔面痙攣等の神経圧迫症候群を患う患者さんには、60歳代以上の高齢者が多いのですが、まれに

30歳以下の若年者にもこれらの症状が出現することがあります。また、血管は接触していないにも関わらず、何らかの原因で脳神経が曲がることで同様の症状を呈する事もあります。また症状の起こり方も、急速に出現したり、ゆっくりと進行したりなどの違いがみられます。

本研究の目的は、過去の診療録等から神経血管圧迫症候群患者毎の臨床的特徴と、脳血管や神経走行の相異などの発症に関わる要因を抽出し、神経血管圧迫症候群の臨床像を明らかにすることです。

神経血管圧迫症候群の臨床像の特徴を明らかにすることで、神経血管圧迫症候群への手術適応や手技の改良はもとより、新たな治療法開発につながる事が期待されます。

#### 【研究の方法】

神経血管減圧手術を受けられた患者さんについて、過去の診療録、画像検査データ、手術時の所見から、①発症年齢、②症状の特徴、③脳血管の走向の特徴、④手術の効果などのデータを抽出し、神経血管圧迫症候群に伴う臨床像の違いを明らかにし、その要因を抽出します。

本研究は厚地脳神経外科病院との共同研究を行います。

#### 【対象となる患者さん】

1995年1月1日から2022年2月28日までに、鹿児島大学病院脳神経外科または厚地脳神経外科病院で、神経血管減圧術の手術を受けられた患者さん患者さんを対象にしています。

#### 【試料や診療録（カルテ）から利用する情報】

診断病名、診断や術後経過の評価のために行った検査、術中写真を含めた手術記録、症状の経過などを参照させていただきます。

#### 【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する情報は、当院並びに厚地脳神経外科病院の診療情報から、

患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除したものを用います。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科脳神経外科学分野の研究費（使途特定寄附金）で実施します。この研究は、研究者が独自に計画し、実施します。企業等の第三者機関からこの研究のための資金提供や労務提供は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 脳・神経センター 脳神経外科

講師 花谷亮典

電話 099-275-5375 FAX 099-265-4041